

京都大学大学院 総合生存学館「思修館」



平野 実晴さん 総合生存学館 総合生存学専攻

本学の法学部に在学中、国際法模擬裁判の世界大会に参加し、国際社会の複雑な紛争も法によって平和的に解決する可能性があると感じました。また、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）でインターン活動をし、国際機関で法がどのように活用されているのか学びました。

複雑な事情が絡む国際問題の解決に法は有用ですが、経済学や理系の学問など、さまざまな分野の専門家が連携して対処することも欠かせません。思修館では他研究科の研究活動に参加できる

ため、法学研究の高度で専門的な知識も学べる上、多彩な専門分野の学生が在籍する合宿型研修施設で日常的に行われる議論を通して、多角的な視点を自然に身に付けることができます。

経済、環境、人口移動など、グローバル化の影響は、開発途上国に対して法的な課題も突きつきます。将来は国際法の専門家として、他分野の専門家や利害関係者と協働しながら、そうした複合的な問題の解決に貢献できる人材になりたいと考えています。

school data

取得可能な学位▶博士(総合学術)

定員▶20人

奨学金▶あり

主な進路先▶国際機関、政財界、官庁、多国籍企業、研究機関、NGOなど



access

〒606-8501

京都府京都市左京区吉田近衛町69 近衛館2F

TEL ▶075-753-5122

FAX ▶075-753-5147

Email ▶info.shishukan@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

URL ▶http://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/

交通▶京都駅などからバスで近衛通下車徒歩1分

ノーベル賞受賞者をはじめ優秀な人材を数多く輩出してきた京都大学が今、最も力を入れてるのは、世界で活躍する「グローバルリーダー」の育成だ。そのミッションを実現するため、2013年4月、新しいタイプの大学院「総合生存学館」（通称「思修館」）が創設された。「複雑化する現代の課題解決には専門知識だけでは不十分。狭い専門分野にとらわれず、より幅広い知識と深い専門性、柔軟な思考力に加え、強い意志と実行力を併せ持った次世代型リーダーの輩出が欠かせません」と川井秀一学館長は強調する。同大学院は、世界で活躍できる人材の育成を目指す文部科学省「平成23年度博士課程教育リデザインプログラム（オールラウンド型）」にも採択されている。カリキュラムの特長は、5年間の一貫した大学院博士課程。1～2年次に国内外インターンシップ、4年次には提携する国際機関などで海外フィールドワークに参加し、調査から政策立案、プロジェクトの実行、交渉、成果発表などにチャレンジする。短期ではなく1年間を通じて現場に身を置き、その経験を理論化することで、自分の研究テ

地球規模の課題に挑むリーダー育成



大学院としては珍しい合宿型研修施設（学寮・無償）を提供。さまざまな目標を持つ学生や多方面で活躍する教員と昼夜を問わず議論を重ねられる環境で、多面的な思考力・実践力を身に付けられる。



学生の専門性や適性、希望を踏まえ、各自の目標を実現するため、個別のカリキュラムを設計している。複数の教員が5年間、研究指導から生活面のアドバイスまできめ細かくサポートする。

マの課題解決策を生み出しながら実行力を磨いていく。もう一つユニークな取り組みが「熟議」と「八思」である。「熟議」は、経済人や官僚など現役リーダーを学外講師として迎え、活発な議論を通じてリーダーとしての考え方を学ぶ。「八思」は、医薬・生命、情報・環境、語学など8分野の高度な教養科目群から出身学部以外の7分野×2科目を履修し、グローバルリーダーに必要な主要専門分野の基礎を文理融合で習得する。大学院入学の要件は「リーダーを目指す確固たる信念と将来の展望を持っていること（川井学館長）国際機関などへの就職を目指す学生が多く、明確な目標を持って日々勉学に励んでいる。多様な専門分野の学生や留学生が5年間、切磋琢磨しながら多くの時間を共に過ごすことで、将来のネットワークづくりにもつながっている。複雑化する世界にあって何より求められているのは、緊急時でも平時でも、高い使命感と覚悟を持って対処していけるリーダーである。優れた判断力と行動力を備え、日本と世界を変えたいという志を持つ人材に挑戦してほしい大学院といえる。